



青葉区民会議

青葉区民会議ニュース

2022年3月

55号

事務局 〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町31-4 青葉区役所区政推進課広報相談係内
 Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 Email:mail@aobakuminkaigi.com
 URL:http://www.aobakuminkaigi.com/ または「青葉区民会議」で検索



<14期が始動しています！>

青葉区民会議は今期14期目(2021年4月～2023年3月)を迎えました。1部会(住み続けたいまちづくり部会)で始動し、主に4つのテーマ別グループ(防災、交通、健康長寿、シェアリングエコノミー)に分かれ活動を展開しています。部会・運営委員会や勉強会(不定期開催)はZoomを活用しながら、「新しい生活様式」を踏まえた活動を行っています。



▲発足総会



▲オンライン勉強会

<青葉区民会議ってなに？>

青葉区民が自主的に参加し、青葉区をより住みやすいまちにするために活動し、提言しています。

- ◆公募、自治会・団体推薦の委員で構成されています。
- ◆区民の意見を集め、話し合い、各分野で調査検討します。
- ◆広聴事業の一つとして位置づけられ、区局の担当部署と話し合い、協働してまちづくりを進めます。
- ◆公開講座を開催し、区民と共に考えます。
- ◆市の予算編成に対する要望・提案を行います。

→2022年度(令和4年度)横浜市予算へ防災・減災関連など5分野7項目の要望・提案を行いました。

要望内容及び要望に対する横浜市の回答については4月以降、青葉区民会議のホームページに公開予定です。

<交通アンケートを実施します>

2020年11月の関係法改正により、公共交通を中心に福祉輸送など地域の輸送資源を総動員する交通計画である「地域公共交通計画(マスタープラン)」を作成することが地方公共団体の努力義務とされました。これを踏まえ、横浜市は2018年に改定した横浜都市交通計画の見直しを検討しています。

急激な高齢化社会の進展、パーソナル小型モビリティの普及、また、ポストコロナでの働き方改革も進んでいます。そこで青葉区民会議では、区民の皆さんがどのように交通機関を利用し、今後の地域交通に対してどのように考えているのかを調査する交通アンケートを実施します。ご協力をお願いします。

【回答方法】**5月31日まで**にWebフォームで回答してください。

回答はこちらから →

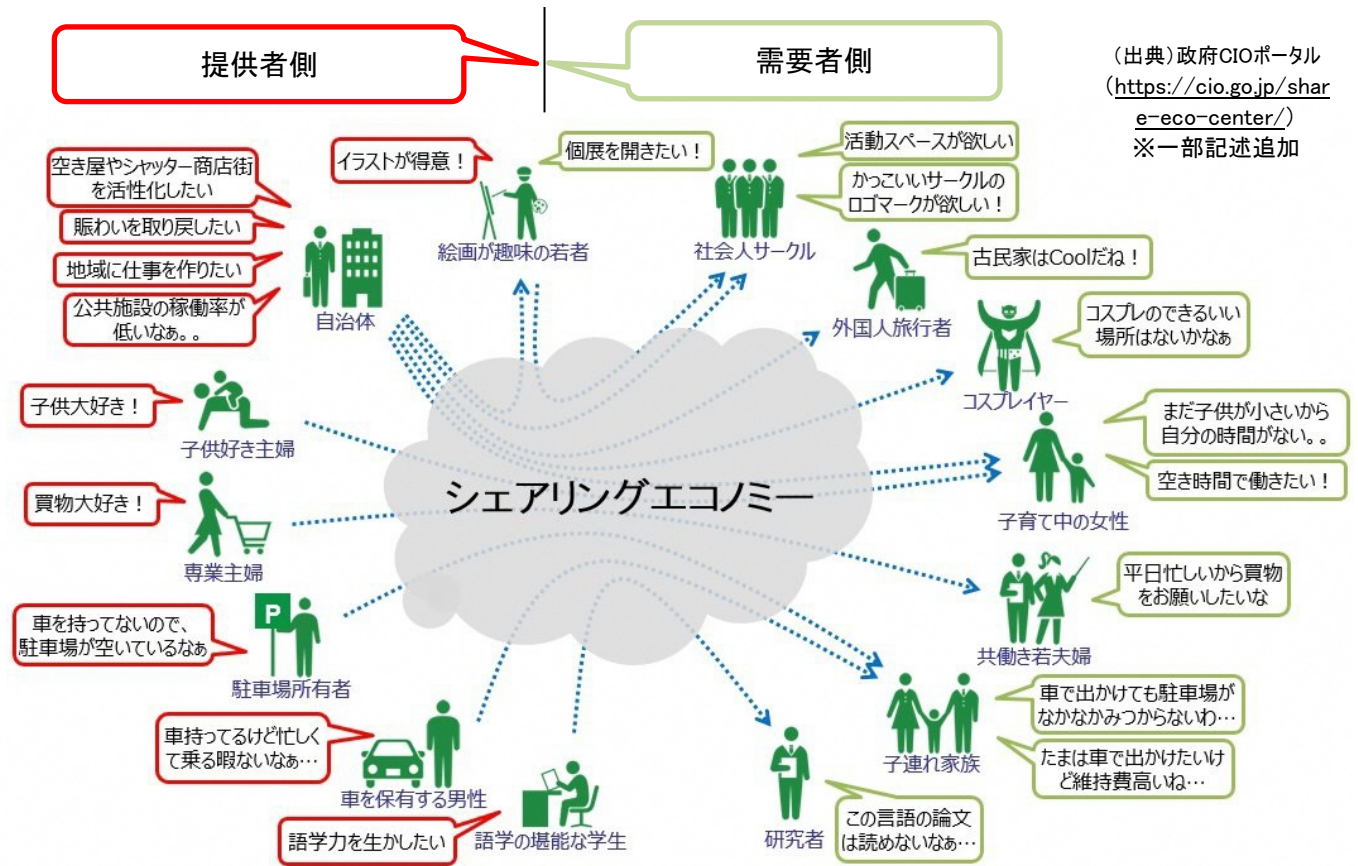


区民会議の勉強会に参加しませんか？

＜シェアリングエコミーを考えるグループが青葉区民会議に発足＞

シェアリングエコミーとは？

個人等が保有する活用可能な資産等(スキルや時間等の無形のものを含む。)を、インターネット上のマッチングアプリ等を介して他の個人等も利用可能とする活動は、近年シェアリングエコミーと呼ばれています。ITの普及・高度化に伴い、空き部屋、会議室、駐車スペースや衣服のシェア、家事代行、育児代行、イラスト作成のマッチングなど多様な分野で登場しつつあり、一億総活躍社会の実現や地方創生の実現など、超少子高齢化社会を迎える我が国の諸課題の解決に資する可能性があります。



(出典)政府CIOポータル
(<https://cio.go.jp/sharing-economy-center/>)
※一部記述追加


シェアリングエコミーは、主に5つのサービス分野(空間、モノ、人の持つスキル、移動、お金)に分類されます(消費者庁HP)。

【シェアリングエコミーを取り入れた区民会議の考え方】

青葉区民会議では、横浜市や青葉区の抱える政策課題を解決するためにシェアリングエコミーの考え方活かさないかと考え、このためのグループを昨年発足させました。検討を重ねた結果、次の2点を青葉区への提案として提出しました。

- 余剰食品を福祉施設などへ届ける活動を担う「フードバンク」団体を支援してほしい(モノのシェアリング)。
- 「個人」としてボランティア活動への横浜市民の参加を促すために、よこはまシニアボランティアポイント事業を拡大し、「横浜市誰でもボランティアポイント」を創設してほしい(人の持つスキルのシェアリング)。

青葉区民会議では、日々進化するシェアリングエコミー分野の研究を次年度も継続して行い、これからの課題解決のヒントを探っていきます。

 区民会議では定期的に勉強会を開催します。内容やスケジュールについては青葉区民会議ホームページでお知らせします。参加希望の方は区役所広報相談係へご連絡ください。

青葉区民会議に参加を希望される方は、氏名・年齢・住所・電話番号・メールアドレスを書いて青葉区役所 1階広報相談係へ
Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 メール:ao-koho@city.yokohama.jp

※個人情報は、事業の目的にのみ使用します。

区民会議はテーマや分野に分かれて活動しています

<横浜市の健康に関する市民意識調査>青葉区の結果は？

横浜市は、健康管理から食生活、運動習慣等11の分野60項目にわたって市民にアンケートを行った「令和2年度 健康に関する市民意識調査」の結果報告書(*)を2021年9月に公表しました。区ごとのランキングを見ると、青葉区は「自分の歯が20本以上あるか」など、以下の8項目で「はい」と回答した人の割合が市内18区中で第1位でした。

<input checked="" type="checkbox"/> 自分の歯が20本以上あるか	<input checked="" type="checkbox"/> 飲酒は1合未満か	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日副菜を3回食べるか
<input checked="" type="checkbox"/> この1か月間の健康状態はよいか	<input checked="" type="checkbox"/> 食事を食べ残さないか	<input checked="" type="checkbox"/> 普段の食事が楽しいか
<input checked="" type="checkbox"/> 健康管理にアプリやウェアラブルデバイスを活用したいか	<input checked="" type="checkbox"/> 家族と食事を作ることに興味があるか	

また、以下の3項目では、「はい」と回答した人の割合が市内18区中で最小でした。

<input checked="" type="checkbox"/> 毎日の飲酒習慣があるか	<input checked="" type="checkbox"/> 睡眠がとれていないか	<input checked="" type="checkbox"/> これまでに心疾患と診断されたことがある
---	--	---

アンケートの結果、青葉区民の健康に関する意識の高さは市内有数であることが分かった一方で、

- ・「COPD(慢性閉塞性肺疾患)」という病気を知っているかについては、知っている人が最下位。
- ・「よこはまウォーキングポイント事業に参加しているか」も、参加していない人が多いなどの課題があることも分かりました。

青葉区民会議では、この調査結果の他の項目についてもさらに区単位で吟味し、青葉区の特徴を掴むべく解析を進めようと考えています。また、「なるほどあおば」や各種健康データと合わせ、私たちの課題と方策を議論していきます。

* 調査は「第2期健康横浜21」(2013年度～2022年度)の最終評価及び次期計画策定の基礎資料となるもの。

調査対象は市内在住の20～69歳の男女。回答者数12,474人(うち青葉区民 1,077人(8.6%))。設問60問。

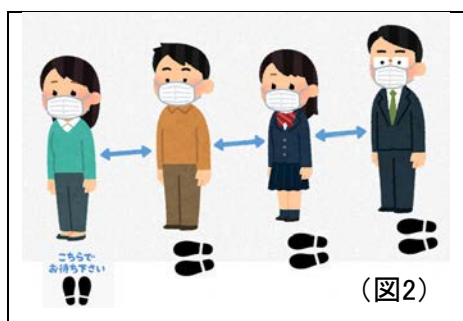


調査報告書は
こちらから →



<ナッジってご存知ですか？>

ナッジ(Nudge)とは、社会的に良い選択をするように「そっと後押しすること」です。米国シカゴ大学のリチャード・セイラー教授がこのナッジを使った行動経済学を理論化し、2017年にノーベル経済学賞を受賞したことによって、世界中でナッジが注目を集めることになりました。ナッジを使った最も有名な成功例の一つは、オランダのスキポール空港のトイレの例です。同空港では、男性用の小便器の中央に「小バエ」の絵を描くことにより、トイレの清掃の時間と費用の大きな削減に成功しました。男性がハエを狙って用を足すため、大幅に尿の飛び散りが減ったのです(図1)。



このほかナッジの応用例としては、

- ・コンビニのレジ前に足跡をつけておき、間をあけてそこに並ぶように誘導する(図2)。
- ・臓器移植の同意を求める際に、もともと「臓器移植へ同意する」のチェックボックスにチェックが入るように設定しておき、臓器移植をする意思がない人は、チェックを解除するようにする。
- ・納税期限内に納税した人の割合が高いことを納税通知書へ記載することで、納税率がアップ。

このように、ささやかな「きっかけ」を与えることで、人の行動をガラッと変えてしまうことから、ナッジは「現代の魔法」とも言われています。

青葉区民会議では、こうした小さな「魔法」を取り入れて区の課題を解決できないかと考えています。例えば、家庭から出るゴミをきちんと分別して捨てもらうためにはどのような「ナッジ」が使えるかなどです。また、横浜市職員を中心にしたナッジの研究グループも2019年に立ち上がっており、同グループから講師をお招きしてナッジに関する勉強会も開催しました。

区民会議は青葉区の‘今’と‘これから’の課題を共有します

<フェーズフリーで防災>

防災グループは、青葉区民会議発足時から防災について考えているグループです。前期(13期)では、「マイ・タイムライン」(避難行動計画)を作って、平常時から避難に備えた行動を整理しておくという災害の備え方を学びました。「マイ・タイムライン」「コミュニティタイムライン」の必要性を知り、その普及啓発を市に対して提案しました。今期は、非常時に役立つモノを平常時から使うことで非常時の備えになるという「フェーズフリー」の考え方を学び、「いつもあるモノがもしもの時の備えになる」という視点で災害時の備えについて考えてきました。

「フェーズフリー」という言葉を理解するために、フェーズフリー協会のホームページを開くと『災害は起きるけれど、備えるってむずかしい。でも、大切な人を守りたい』そんな言葉から始まっていました。

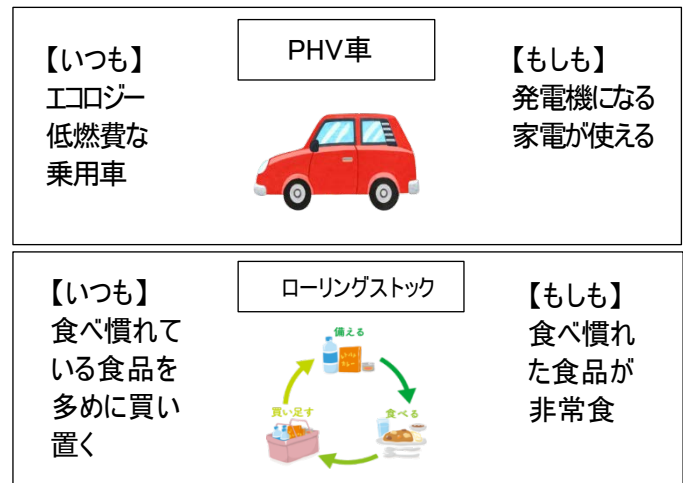
フェーズフリーの事例として紹介されていたのが、PHV(Plug-in Hybrid Vehicle[※])という車です。
(※PHV:ガソリンでも電気でも走行でき、充電していた電力で家電を使うこともできる車)
移動が目的で利用する自動車、それが「もしもの時」は給電をして家電が使える発電機になる!



フェーズフリー協会



マイ・タイムライン
作成方法



<ポリ袋を「フェーズフリー」で考えた！>

- 耐熱性ポリ袋(高密度ポリエチレン製)を使う
食品衛生法適合の表示があれば、食品の保存、冷蔵・冷凍はもちろん、「もしもの時」には料理ができます。

- ・ ボウル代わり ・手袋代わり ・お皿の代わり
- ・ 湯せん調理でごはんとおかずと一緒に作れます。

【パッククッキング 検索】

【ポリ袋クッキング 検索】



- 大・中・小のポリ袋を使う
大きいポリ袋、いつもはゴミ袋。「もしもの時」には、
- ・ 二重にして給水タンクの代わりに。
- ・ トイレが使用できなくなった時には、大きいポリ袋を二重にして家のトイレにかければ「非常時トイレ」。
- ・ 土のう代わりに水のうを作って浸水を防ぐことも。
- ・ 雨カッパの備えがなければ大きな袋で簡易ポンチョも作れます。

- 消臭効果プラスのポリ袋を買っておく

いつもは臭いの強い生ごみ対策用。ペット、赤ちゃんや介護用おむつの臭い対策。
「もしもの時」には臭いの問題は深刻です。トイレが使用不可の場合には水に流すこともできません。
停電になれば冷蔵庫の中の物も腐敗を始めます。臭いを我慢することは、ストレスの要因にもなります。
消臭効果のプラスされたものがあれば、いつものものが「あって良かった」備えになります。

(参考文献:「マンガ防災図鑑」、「新しい防災のきほん事典」、「地震イツモマニュアル」、「防災アイデア手帖」)

編集: 青葉区民会議広報委員会

区民会議ニュース カラー版は青葉区民会議ホームページで!

区民会議ニュース配架場所: 青葉区役所、地区センター、地域ケアプラザ、区民活動支援センター、

区内駅PRボックス、図書館、区民利用施設など

